

全国学力・学習状況調査の結果について

京都市立山ノ内小学校

令和5年4月18日に6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、文部科学省より結果が公表されました。京都市は国語科、算数科共に全国平均を上回る結果でした。本調査は、国語、算数の2教科の調査と同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されています。学力調査の結果や生活習慣など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

<国語科について>

「【川村さんの文章】の空欄に米作りの問題点と解決方法を書く」問題の正答率が32.1%と低くなっていました。この問題を解くには「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力」が必要です。問題に提示されているグラフやカードを関連付けて、問題点と解決方法を記述します。正答率が低かった理由として、グラフから分かる問題点①「学校の田んぼでは雑草が増え続けていたこと」とカードから分かる問題点②「雑草に栄養をとられてしゅうかくが減ってしまうかもしれないこと」の二つを組み合わせて、問題点として記述することができなかったことがあります。問題点①が起こることによって、問題点②が起こることを関連付けて記述しなければなりません。解決方法についてはカードのみに示されているので、記述できている児童が多くいました。

※伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるために、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを児童が考えられるようにします。そのためには、それぞれの図表やグラフの特徴や優れている点などについて、他教科等と関連して指導することも必要です。児童の学習の状況に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することも継続して行っています。

<算数科について>

「切って開いた三角形を正三角形にするには、(切り開く前の) Aの角の大きさを何度もすればよいか」という問題の正答率が全国の正答率と同様に20%台でした。切り開く前のAの角の大きさは、切り開いた後の角の半分の大きさです。誤答として、60度と答えている児童が多くいました。Aの角がテープを切って開く前の角であることに着目できておらず、正三角形の一つの角の大きさが60度であることから、60度と解答していると考えられます。

※目的の図形をつくるために、どのような操作をすればよいか、見通しを立てることができるようにすることが大切です。その際、テープを折っての角の大きさを20度などにして切ってできた直角三角形を切り開くと、頂角の大きさがそれぞれ何度になるのかを考えることで、2倍の関係性に気付き、正三角形をつくるためには、頂角の大きさを60度の半分の30度にすればよいという見通しを立てることができるよう指導します。

<児童質問紙より>

「英語の勉強は好きですか」という問い合わせに対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童が80%を超え、全国平均を10%以上、上回っていました。さらに、「英語の勉強は大切だと思う」と考えている児童も95%を超え、全国平均より高い数値となっています。今年度は、英語や外国語活動で専科指導や交換授業を取り入れている学年もあります。より質の高い学習指導ができるよう、継続して指導します。